

# 1 研究構想図

<学校教育目標>

知徳体の調和のとれた品性ある子の育成

～笑顔いっぱいの学校～

<研究主題>

積極的に学び合う子を育む

友達との関わりを通して 思考を深める授業づくり

<研究の重点>

①一人ひとりが考えをもつための手立て

②思考が深まるための手立て

学習規律

聴く・話す

基礎基本

学びの土台

## 2 めざす子ども像

すすんで考えを伝え合う子

よりはっきりとした考えをもつことができた！  
表現することができたよ！

わかった！できた！と思える子

### 3 研究の重点について

#### (1) 重点①一人ひとりが考えをもつための手立て

##### ☆考えたくなる課題づくり

- 児童に疑問をもたせる
- 既習との違いの明確化
- 児童と課題をつくる

##### ☆見通しをもたせる学習活動

- 本時の授業の流れ、ゴールを示す
- 既習揭示（学習計画・既習内容・学習用語）の活用
- 実物・具体物・ICTの活用
- 最初に全体で考えの具体例を挙げる

##### ☆個人思考の場の設定

- 考えを簡潔にまとめさせる
- 語彙表・国語辞典・類義語辞典の活用
- ワークシートや全文シートに書き込む
- 根拠に線、理由も入れる
- 色分けする
- 図・表・学習用語を使う

##### ☆きめ細かな個別支援

- 机間指導
- ヒントカードの提示

#### (2) 重点②思考が深まるための手立て

##### ☆交流のめあて・方法・形態の明確化

- 必要感を引き出す働きかけ
- 交流のめあて（考えをもつ・増やす・くわしくする など）をもたせる  
→交流後、めあてが達成できたか振り返る

- ワークシートやまなボードの活用

- 目的に応じた意図的グループ編成（同じ考え・違う考え、同じ場面・違う場面同士 など）

##### ☆話し方・聴き方の活用

- 話型（「…だと思います。…を見てください。…だからです。」「自分だったら…」「初めは…だったけど…になった」「自分が…の体験をした時には」 など）の活用

- キャッチボール言葉（「どうして?」「どこから?」「〇〇ということですか?」 など）の活用

##### ☆深めの発問・問い返しの吟味

- 事前に複数想定し、授業で働きかける  
（「…と…を比べてどう思った?」「つまり?」「本当にそうかな?」「…と何が違うかな?」「…の場合はどう?」「いくつにまとめられる?」 など）の意識

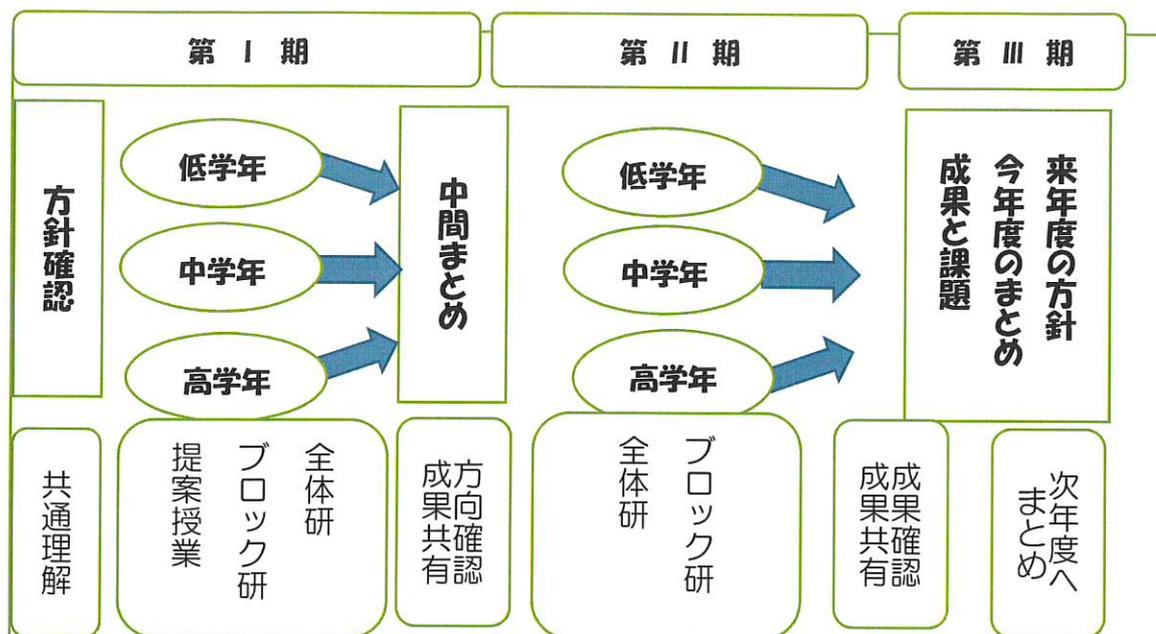
##### ☆構造的板書の工夫

- 対比・分類・関係・キーワードなどの可視化

##### ☆まとめ・ふり返りの場の設定

- 自分の言葉で・条件をつけてまとめる
- ふりかえりの書き方の活用

#### 4 校内研究計画



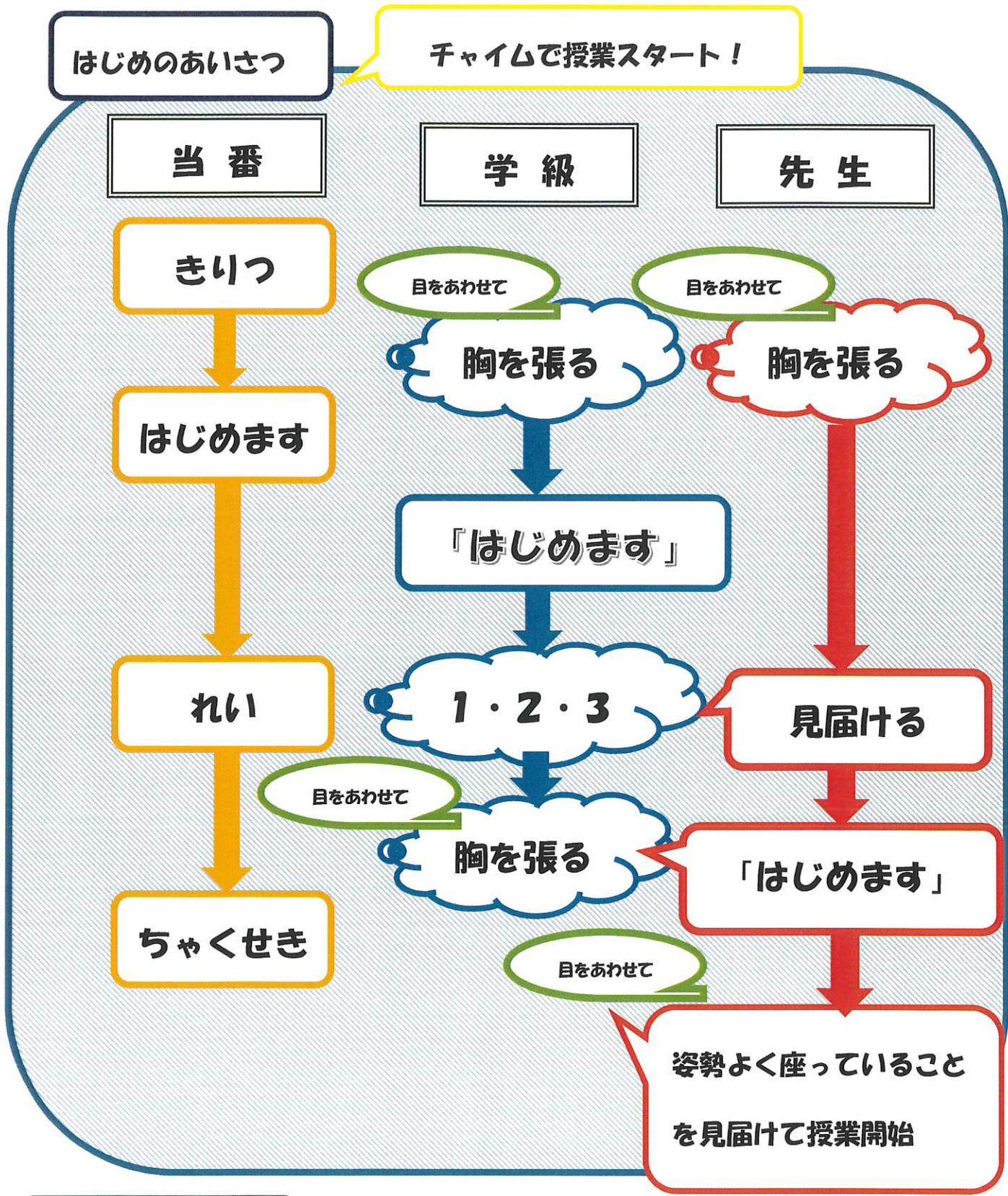
#### 5 校内研究のもち方

- (1) 1人1研究授業を行う。
- (2) 全体研究授業3本（低中高1本）、その他の学年はブロック研究授業を行う。
- (3) 教科・単元は学年で相談して決める。（1学年1～2教科、2単元以上）
- (4) 級外は、できるだけ所属する学年またはブロックで研究授業を行う。
- (5) 助言者の要請は、各学年1本ずつの研究授業の事後整理会で行う。

6 学びの土台

(1) 学習規律

① 授業のあいさつの仕方

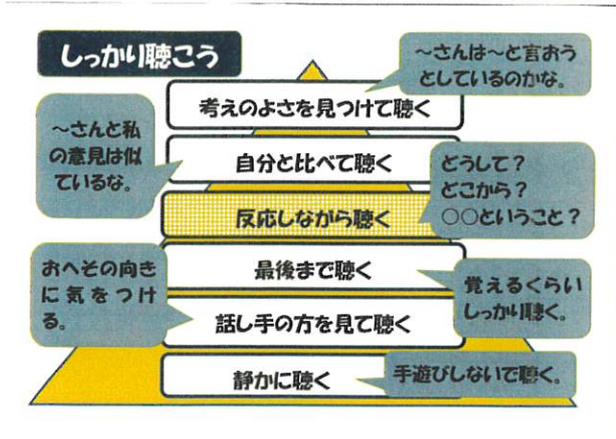


終わりのあいさつ

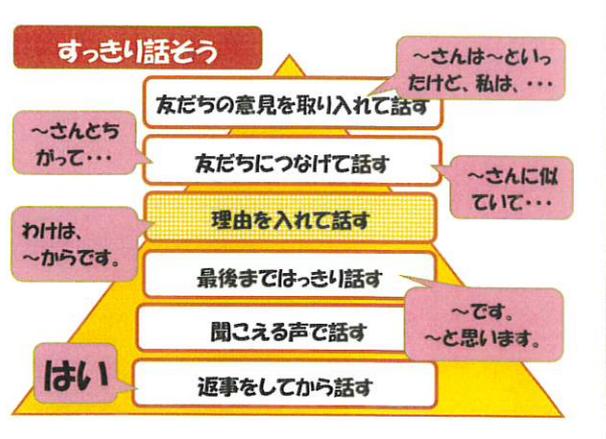
先生の「終わります」の号令の後、次の授業の準備をしてから休憩する。

(2) 聴く・話す

① 聴くピラミッド

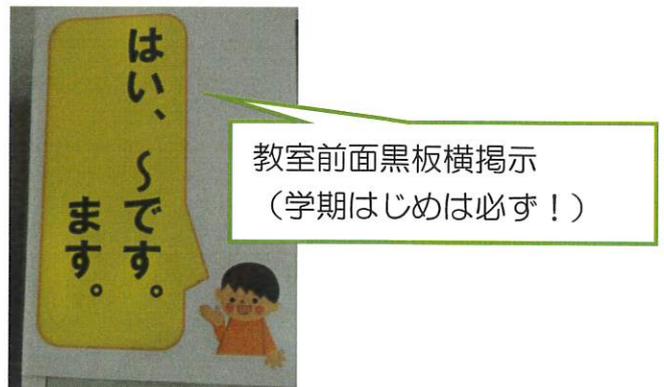


話すピラミッド



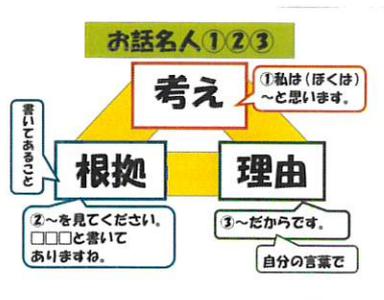
ア. 授業の中に全員挙手できる場面をつくる

ア. 返事をして、最後まで話す



イ. キャッチボール言葉

イ. お話名人



学年、児童の実態、交流の目的に合った言葉で対話させる。

↑考えを伝える話し方↓  
↑を見てください。と書いてありますね。だから、~と思います。↓

**考え・根拠・理由**  
を意識した話し方

(3) 基礎基本

① 書く

<ノートの使い方>

1マスに1字! ていねいに!

- ① 1・2の線をかく (算数・社会・理科)
- ② 日付を書く
- ③ 課題が確認できたら (\*問題④は青で囲む)

赤で< >課題を書く

- ④ 自分の考え④を書く
- ⑤ 友だちの考え⑤を付け加える (交流)
- ⑥ まとめ⑥を書いて赤で囲む
- ⑦ ふりかえり⑦を書く

☆適用問題

**まとめ・赤**

課題に対するまとめ  
課題との整合性・子どもの言葉で  
条件の提示  
書き出し・キーワード

**ふりかえり・青**

自分の変容  
(ビフォー・アフター)  
友達の考えからわかったこと、  
考えたこと

日付

日付ライン (1・2の線)

課題は2行になったら  
大きく山かっこ

4/8

わかりやすいノートを書く  
方は?

問 のり子さんはあめを5つもって  
います。2つたべました。  
あめはいくつのこっていますか。

問は青で囲む

自 5 - 2 = 3

自は図や言葉で

○○~~×~~  
○~~×~~  
のこり

課題とまとめが  
つながるように

答え 3こ

友

友達の考えを付け加える

まは赤で書き、赤で囲む

ま

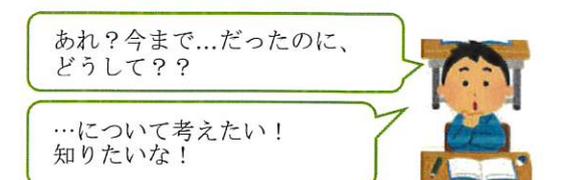
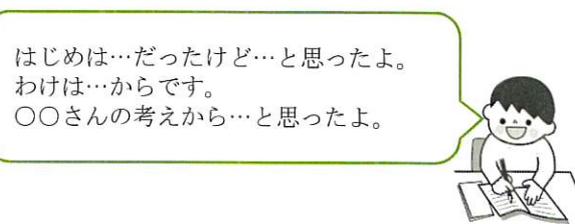
☆子どもの言葉で  
☆キーワードを使って

友 さいしよは... だっ たけど... がわ  
かるようになった。

友は青で書く

☆○○さんの～な意見を聞いて...  
☆最初は～だったけど、こんなことがわかったよ

## 7 学び合って分かる授業 広陽授業モデル

学習課程	区切り	指導することとめざす子どもの姿	
構え	チャイムスタート	○はじめの挨拶 大きな声で「始めます」教師が見届ける	
つかむ 5分	既習の確認	○既習について全員挙手 ・既習掲示・学習用語・学習計画の活用	○前の時間はどんな勉強をしましたか？ 
	課題をつかむ	○考えたい課題づくり <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな、どうなって（観点）</li> <li>・どうして（理由）</li> <li>・どのように（様子）</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習との違い</li> </ul>	○今日はどんな勉強をしますか。 
	見通しをもつ	○ゴールをイメージさせる	○今日のゴールは…がわかればいいんだね。
考える 5分	自力解決 <b>根拠</b> <b>わけ</b>	○全員に考えをもたせる手立て ・手がかりは？（既習・叙述） ・図・絵・言葉・学習用語・生活経験をもとに ・書き方の見本を示す	○考え・根拠・理由を書かせる。 
学び合う 20分	交流 <b>反応</b>	○交流するための手立て ・ペア、グループ、全体交流 ・根拠を指し示しながら話す ・反応しながら聴く （キャッチボール言葉を使って） ・自分と比べながら聴く	
	深めの発問	○思考を深める手立て ・考えの分類・対比・関係 ・考えの共通点や違い ・...の場合はどうかな？	○もし…だったら？ ○いくつにまとめられる？ 
まとめる 15分	課題のまとめ ふり返り	○課題に正対したまとめ ・自分の言葉で ・条件をつけて ○活用 ○ふり返り ・自分の変容 ・友達の良さ ・思ったことや考えたこと	○今日の課題はく　　〉でしたね。 課題についてわかったことは？ 
締め	チャイムで終わる	○終わりの挨拶 大きな声で「終わります」教師が見届ける	